

鱒坂哲朗：オーストリア・ウィーン自然史博物館に所蔵されている Grunow  
のホンダワラ類標本

Tetsuro Ajisaka: Grunow collection of *Sargassum* deposited in the herbarium of  
Naturhistorisches Museum Wien in Austria

Tetsuro Ajisaka, Faculty of Agriculture, Kyoto University, Kyoto, 606 Japan

すでに北海道大学の吉田教授 (Yoshida 1987) によって報告されていますが、オーストリア・ウィーン自然史博物館 (Naturhistorisches Museum Wien, W) (Fig. 1) には、膨大な量の褐藻ホンダワラ類標本が保存されており、これらの標本をもとにして Grunow (1915, 1916) はホンダワラ属のモノグラフを記載しました。しかし、我々は彼のことについてあまり知見を持っていませんし、これらの標本については、山田幸男先生が1928年の外国留学時代の思い出として回想録 (1979) に記されていることと、また、その一部である *Bactrophyucus* 亜属についての先述の Yoshida (1987) のノートがあるだけです。その他の亜属については詳しく調べられた報告はまだありません。

著者は1989年と1992年の2回にわたって本博物館を訪問し、植物部門の研究者である Passauer 博士の手助けによって、これらの標本を詳しく調べる機会を得ましたので、これを機に Grunow の人となりやそのホンダワラ類標本について御紹介いたします。

博物館発行の Grunow 自身と彼の標本に関する Rechinger 博士の紹介文2編、Grunow 自筆の手紙 (Apr. 18, 1884) と Hakansson によるその現代文訳 (ドイツ語) の計4通のコピーが著者の手元にあります。それらによりますと、Albert Grunow は、1826年11月3日にベルリンで老鉄道員の長男として生まれました。優秀な成績で学校を卒業するや、ウィーンの南東30 kmにある Berndorf という町の金物工場の化学者として、1851年 (25歳) から1901年 (75歳) まで働きました。その仕事の合間の自由な時間と引退後亡くなる直前までの時間を自然科学の研究 (主にケイソウ類とホンダワラ類の分類学的研究) にささげました。彼は幼少の頃からカブトムシ、蝶や鉱物の収集を始め、しだいに植物、特に藻類であるケイソウ類とホンダワラ類に興味をもつようになりました。友人である宮廷天文学者 Schwabe (1843年に太陽の黒点の周期性を発見した) の取り持つ縁で、この地方の藻類収集家である

Frederike 大公とも知り合っています。また、音楽を愛好し、楽器も得意で、登山家でもあり、語学にも秀でていたそうです。

1885年の59歳のとき彼は、大採集旅行の計画を立て、スエズ、アレキサンドリア、コロンボ、カリフォルニア、ホノルル、ニューカレドニア、シドニー、オークランドなどで自ら採集していますが、大部分の海藻標本はニューカレドニアで採集したものです。それまでは探検隊の採集品を研究材料にすることが普通であり、実際に彼のように自ら熱帯地域でホンダワラ類を採集した研究者はいませんでした。ウィーンの博物館に所蔵される彼のホンダワラ標本は、3,129枚もあるそうです。1914年3月17日に88歳で亡くなっていますが、ほぼ40年間にもわたる研究成果として先述のホンダワラ属のモノグラフが出版されたのは残念ながら彼の死後でした。

ホンダワラ属の分類体系は Agardh (1889) によってほぼその基本が完成し、Grunow やその後の研究者たちもそれになっています。特に彼の研究で目だつのは、ホンダワラ類のそれぞれの種にたくさんの変種を新たにつくったことです。東京学芸大学の真山博士によりますと、彼はケイソウ類についても多くの変種を記載したそうです。ウィーンの博物館に所蔵されている標本も、その大部分はそのときの記載に使われた原標本にあたります。彼の死後出版されたモノグラフには図版がなく記述のみでしたので、後生の分類学者たちには彼の新変種の実態を理解することがなかなか困難でした。しかし、ここの標本室にはこれらの原記載の標本についての彼の意見や、葉・気胞・生殖器床などのスケッチ (Fig. 2) が彼の自筆で書き込まれていたり、彼が参照した Agardh (1889) や Greville (1848) などのスケッチの模写がたくさん残されており、それらがきちんと標本と同じく通し番号をつけて整理してありますので、ここにくれば彼のつくったホンダワラの変種に関する考えがよくわかり、研究の手助けにな



Fig. 1. Naturhistorisches Museum Wien, Austria.

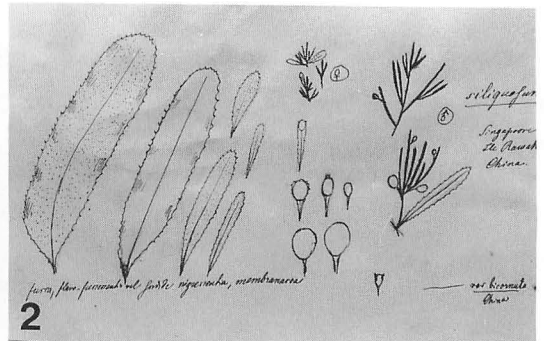


Fig. 2. Grunow's sketch in the specimen of *Sargassum siliquosum* J. Agardh.

と思われる。特に彼は慎重に形態の変異を観察していますし、生殖器床の雌雄性にも注意をはらっています。ホンダワラ類のほとんどを占めるホンダワラ亜属の種は世界の熱帯・亜熱帯地域に分布し、その形態変異が著しいために分類が未だに困難な状況にあります。将来はDNA分析などによって種の区分が明確になるとは思いますが、現在はそれぞれの種を区別できる形態学的変異の範囲を明らかにすることが重要であると考え、地理的・生態的に異なる個体群ごとの変異の幅を調べたり、生長段階による変異の幅を調べる研究を進めています。このため、Grunowの仕事によって得られた知見は貴重であり、大変参考になります。

## 謝 辞

親切にも Grunow の標本と資料を提供されたウィーン自然史博物館の Passauer 博士と、Grunow のケイソウ関係の資料を調べてくださった東京学芸大学の真山茂樹博士に厚くお礼いたします。

## 文 献

- Agardh, J. 1889. Species Sargassorum Australiae. Kongl. Sv. Vet.—Akad. Handl. 23: 1–133.
- Grunow, A. 1915. Additamenta ad cognitarum Sargassorum. Verh. zool.—bot. Ges. Wien 65: 329–448.
- Grunow, A. 1916. Additamenta ad cognitarum Sargassorum. Verh. zool.—bot. Ges. Wien 66: 1–48, 136–185.
- Greville, 1848. Algae orientales: Descriptions of new species belonging to the genus *Sargassum*. Trans. Bot. Soc. Edinburgh 3: 85–99.
- Rechinger, K. 1914. Das Algenherbarium von A. Grunow. Annalen des K. K. Naturh. Hofmuseums 28: 349–354.
- Rechinger, K. 1915. Albert Grunow. Eine biographische Skizze. Ver. zool.—bot. Ges. in Wien 65: 321–328.
- 山田幸男 1979. わが海藻研究五十年.
- Yoshida, T. 1987. Notes on the Grunow collection (W) of *Sargassum* subgenus *Bactrophyucus* (Phaeophyta, Fucales). J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Ser. V. 14: 73–87.
- (606 京都市左京区白川追分町 京都大学農学部)